研修会での共有機能の利用

「三面騒議法」による研修会では、3色の付箋紙を貼って・・・など行っています。 このような研修会で数台の PC をネットワークで共有し icard で共同利用することができます。 コンピュータの教育利用が始まった 1989 年の研究授業のビデオを使ってコンピュータの教育利用のあり方を検討 する研修会用の icard 教材を作ってみました。

<↓最初に icard を起動したときの icard の画面>



【研修評価】 インターネットの いいね! のような機能です。

役に立たない 役に立った

今日の研修の評価 下のボタンを左クリックしてください

1回のクリックで20プラス

リンク >SW20 🔓

このカードの中は、リンクの欄に >SW20 と記述されています。 1回クリックすると右へ20ドット大きくなります。 同じ PC から繰り返し左クリックしても大きくなるのは 1回目の左クリックだけです。

左のカードには、リンクの欄に >Sw20 と記述されています。 このカードを左クリックすると、左へ20ドット大きくなります。 同じ PC から繰り返しクリックしても、大きくなるのは、1回目の 左クリックだけです。 【授業参観の場面づくり】



【グループ討議の場面づくり】



【全体会の場面づくり】



「授業を観る」を左クリックすると、1989年の研究授業のビデオが再生される。



グループごとに

赤い付箋紙:授業を観て良かった点 青い付箋紙:授業で問題と感じた点

黄色の付箋紙:他の授業で応用できる感じた点 等々を書く。

参考<コンピュータ利用の歴史>

1988 年 大宮市の中学校で、初めてのコンピュータ利用の研究授業富士通のオーサリングシステムを使った CAI 教材しかし、その後の広がり、研究授業は無かった。

1989 年 大宮市の小学校で、初めてのコンピュータ利用の研究授業 教材は、CAI 教材と呼ばれた。OhCAI は、TXT へと進化。 その後、杉戸、花崎、行田、三富、与野、埼玉県内へと広がる。 ・コンピュータを利用することで、グループ学習、個別学習を可 能としようと考えた。(参考:プログラム学習)

1990 年台 CAI 教材を作るためのオーサリングシステムとして、 国立教育研究所 FCAI TXT 埼玉大学 ECAI が広がる。 埼玉県内の小学校では、TXT と ECAI が多かった。

2000 年台 CAI 教材は、e ラーニング教材へと移行 新たにデジタル教科書の流れが生じる。 TXT は→ WebTXT →アピ com → icard へと進化し現在に至る。

- ①班ごとにポイントになる意見をカードに書き込む。
- ②書き込んだ内容で、ネットワークでつながった全部の icard の 画面が更新されます。
- ③司会者は、カードを移動して、グループ化したり、書き込みを したりして、全体討議を進めます。